

令和3年度教育実践優秀表彰の概要

1 目的 学校教育において、積極的な取り組みを行い、顕著な成果をあげている教員を適切に評価するとともに、その成果を普及することにより、教員の資質の向上や意欲の高揚を図り、学校の活性化に資する。

2 本表彰制度の開始年度 平成15年度

3 表彰者数(案) 教育実践優秀表彰 5名(令和2年度 6名)
教育実践奨励賞 6名(令和2年度 4名)

4 応募数 20名

内訳	○校種別	小	14名	中	2名	高・特	4名
	○男女別	男	7名	女	13名		
	○年齢別	20代	0名	30代	6名		
		40代	11名	50代	3名		
	○分野別	学習指導等	10名	校務分掌等	5名		
		学校体育等	2名	部活動等	2名		
特別支援教育等		1名	その他	0名			

<参考> 過年度の応募数

15年度	31名	16年度	24名	17年度	25名
18年度	38名	19年度	42名	20年度	48名
21年度	61名	22年度	59名	23年度	60名
24年度	52名	25年度	22名	26年度	29名
27年度	43名	28年度	39名	29年度	34名
30年度	34名	元年度	26名	2年度	30名

5 選考等日程

12月24日 募集通知(前年度)
6月4日 募集締切(20名の応募)
8月6日 第1回選考委員会(委員の任命、一次選考:11名選出)
10月4日 第2回選考委員会(二次選考:プレゼンテーション実施)
(最終選考:5名程度選出)
10月21日 定例教育委員会(被表彰者の決定)

6 表彰式 令和3年11月1日(月)

7 表彰の効果等

教育実践優秀教員に選ばれた者は、給与上の優遇措置や中央研修等への参加に優先的に推薦されるほか、各種研修会の講師を務めている。

また、教育実践優秀に選ばれたレポートについては、レポート集として、県内の小・中・県立学校に配布し、義務教育課と教育センターのホームページ上にも掲載して、普及を図っている。

令和3年度 教育実践優秀表彰について

別紙

○教育実践優秀教員

学校名	実践のテーマ	実践の概要等
高松市立仏生山小学校 栄養教諭 下岡 純子	栄養教諭を中心とした、チームで取り組む食育推進について ～今後につなげる、コロナ禍での食育の推進～	食育の視点から栄養教諭が学校運営に積極的に参画し、コロナ禍という逆風の中でこそ、児童の課題意識を大切に、学校全体だけでなく、家庭を巻き込むことを通して、食育の推進を目指した教育実践である。 児童が主体となって課題を解決するために、情報を可視化して提示したり、機を的確に捉えて家庭へ情報提供を行ったりしたことで、一人一人の食や健康への意識の向上など大きな成果を上げている。
高松市立屋島小学校 教諭 上川 亜夕	いかなる社会においても生きていける子どもたちに ～自己有用感の向上と主体性の育成につながる小学校教育の在り方～	児童会が主催する学校をよりよくするための全校生参加型の会議の実践を通して、児童が学校づくりへの意欲の向上とともに、教職員の共通理解の深まりを目指した教育実践である。 計画的に表現力を育成するとともに、一人一人の児童と向き合い、教員との信頼関係を基盤に、児童の願いや思いを引き出しながら、児童の主体性や自己有用感を引き出すなど大きな成果を上げている。
土庄町立土庄中学校 教諭 水本 雅恵	教員を「つなぐ」人権・同和教育研修の実践について ～「本音で語り合い」生き生きと輝ける教員集団をめざして～	学校の実態や課題を丁寧に把握し、教職員の主体性や互いのつながりを意識した研修や業務改善を意識した効果的な研修の見直しを図ることで、教員の資質向上を目指した教育実践である。 自由度の高いカフェ形式の自主研修会やワークショップ型の研修教職員の参加を促す取組を充実させることで、学校全体の人権・同和教育推進の原動力となるとともに、若年教員の人権意識の高揚に大きな成果を上げている。
香川県立 観音寺第一高等学校 教諭 豊嶋 了子	ミーティングによって他者を理解することから動き始める高校演劇の活動実践	ミーティングを大切にする演劇部の活動により、生徒がよりよい舞台を求めて葛藤する中から、自主性、協調性、コミュニケーション能力そして人権意識を向上させる姿が伝わる教育実践である。活動を通じて、生徒が集団の中で主体性を発揮しつつも、一つの目標に向かって折り合いをつける成長の過程が見られ、社会のあらゆる場面でリーダーとして必要な能力が育まれている。生徒主体の活動の中にあっても、教員が継続的かつ緻密に生徒をサポートして成功に導く姿勢は、他の部活動や学級経営にとっても参考になる。

<p>香川県立 香川丸亀養護学校 教諭 三好 菜穂子</p>	<p>音楽療法の視点を生かした授業作りについて ～一人一人が自己肯定感を高め、生き生きと活躍出来る音楽の授業～</p>	<p>音楽療法の視点を取り入れた音楽の授業を通して、「一人一人が積極的に授業に参加できるようにする」との課題設定のもと、特別支援学校の生徒の自己肯定感を高め、自主性を涵養する教育実践である。他の教員との連携した指導によって、生徒が音楽への興味・関心を高め、喜びを感じながら活動できるようになったことがアンケート結果からうかがえる。情報端末を用いた記録動画等を用いて教員間で振り返り、次時の内容を検討する取組みは、チームティーチングで授業するすべての教員に普及できる。</p>
--	---	---

○教育実践奨励賞

学校名	職名	氏名	実践のテーマ
さぬき市立寒川小学校	教諭	荒木 小百合	支援を必要とする児童や学級担任を支えるための校内支援体制の整備 ～支援力、チーム力を高めるための効率的、効果的な校内委員会の在り方を探る～
善通寺市立竜川小学校	教諭	本間 亜希	学級会で児童の自主性を育む ～なかまづくりを基盤においた学級経営を通して～
観音寺市立柞田小学校	教諭	古子 貴将	「委員会活動を軸とした『エールプロジェクト』の推進」について ～正義の気風に満ちた日常をめざして～
観音寺市立大野原小学校	教諭	高木 理恵子	自己の学びの自覚から、主体的に学ぼうとする児童を育成するための授業実践 ～算数科における振り返り活動から次の学びをつなぐ～
三豊市立仁尾小学校	教諭	高橋 夏子	子どもに付けたい力を明確にした外国語の学習を通して人との関わりを楽しむ子どもを育成 ～Let's start English TOGETHER with fun!～
まんのう町立高篠小学校	教諭	竹内 泰大	児童主体のプロジェクトチーム活動 ～課題設定から解決までを実現する集団づくり～